

そこで、兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、手紙によって、教えられた言い伝えを守りなさい。 Ⅱテモテ2:15

## 2015(27)年 週 報

1月18日  
第3聖日  
第3387号

「聖書的な教会建設②」

聖  
言

私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにおいて、天にあるすべての靈的祝福をもって私たちに祝福してくださいました。エペソ1:3

礼拝の恵み 第九章 第七部 礼拝の仕方  
三節 礼拝は知的であるべきである。  
「それは、神は混乱の神ではなく、平和の神だからです。」(一コリント一四ノ三三)とある。聖書研究し始めた信者は、礼拝がなんであるかについての知的理解にすぐに達することができよう。そしてその理解に従って行動するのである。知的礼拝というのを、礼拝についての単なる理論的知識あるいは頭腦的知識と混同してはならない。礼拝についての神の評価を信者が心から理解し尊重することである。その結果として、靈的な、真実な、そして知的な礼拝が神に向かって上昇する。パウロはわれらに、たんなる知識はその所有者を誇らせ(一コリント八ノ一)。また単なる知識は自分の重要性を過度に誇大してしまうようにする。この種の知識は妨げである。なぜなら、このような知識は人が神のみから与える知識を望んだり得たりすることを妨げるからである。信者が靈的、知的な礼拝者になれるようにする三つの方法を考えてみよう。  
(一) 聖書の真理の知的知識を獲得すべきである。それには、もちろん、神の言葉を読むことと研究とが必要である。これが靈的知識のために各々が支払わなければならない代価である。健全な有能な人々の著わした注解書を読むのは良いが、各々が自分で聖書を読んで研究することの代わりにするのは、決して許されない。信者が自分の聖書を研究して結果として自分で発見した事柄はその信者にとって他人が彼に与える事柄よりも重要である。

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru\_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一五年一月二一日午前二〇時 礼拝 山本牧師

「聖書的教会建設」

「神のみごころによりキリスト・イエスの使徒パウロから、キリスト・イエスにある忠実なエペソの聖徒たちへ。私たちの主イエス・キリストの父なる神が褒め称えられますように。神はキリストにおいて、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいませように。」(エペソ二ノ一、二)

教会には物語があります。今から70年、天皇を拝まなかつた韓国のクリスチャンを日本軍は教会に集め、建物にガソリンをかけて火をつけて中にいる人々を焼き殺しました。私たちの教会にも物語があります。教会は20年前地震で真つ二つに裂かれ、私は布団のまま一階に落ちましたが、奇跡的に助かりました。もし日曜日の今頃だったら、礼拝に来ていた殆どのクリスチャンが死んでいただことでしょうか。いや日本のクリスチャンは殆ど死んでいたと思います。神様は福音という物語をもたれています。英語でガスペルといひます。喜びのおとずれという物語です。神様は全世界を創造されましたが、それは教会を造る為でした。教会というならローマのバチカン、イギリスのウエストミンスター、フランスのノートルダムと思うかもしれませんが、教会の原語はエクレスヤといって召す。集める。という言葉がつらなつてできた言葉です。だから教会は建物でなく、クリスチャンの集まりです。神様は人間をそうそうされたのは召し集められたクリスチャンを通して神を礼拝するためでした。しかし、神よりも人間を礼拝し、神様を捨て去りました。それで神様は御子イエス様をあたえるため処女マリヤを選び、救い主をお与えにされました。それだけでなく、愛の故に十字架の上に身代わりの死んでくださいました。そ

して愛の故に死よりよみがえり復活されて40日間も弟子達に現れ、天に昇られました。そして10日間祈る彼らの上に聖霊が降り、そこから教会が生まれたのです。すなわち神の福音物語は教会を建設するためだったので。それほど神様は教会を愛しておられるのです。韓国の教会も日本の教会も愛しておられます。なぜなら、教会こそ神の家族だからです。教会を通して家族が作られます。現在は西欧思想により、家族よりも個人を重要視しています。日本では孤食やワンルームといって一人暮らしや独りで食事をするのが殆どです。100人も信者がいる日本では大教会では信者同士が挨拶しない。ということ。神様と個人的な関係をしっかりとしたいなら、人間同士の関係は重要でない。いやわずらわしいということ。しかし、教会は一人でありません。みんな神を礼拝し、祈り、御ことばを読み、伝道をし、教会を建設し、生活の悩みを祈りあうのです。エペソ書はどのように教会と家族が建てていくのかを書いているのです。

二〇一四年一月一四日午後七時 祈禱会 山本牧師

「エルサレムの罪」(エゼキエル連講二六回)

「銀、青銅、鉄、鉛、すずが炉の中に集められるのは、大きな炉に吹き付けて溶かすためだ。そのように、わたしは怒りと憤りをもってあなたがたを集め、そこに溶かす。」(エゼキエル二二ノ二〇)

エルサレムの民はかなかすである。ごみである。積極的には不純物を取り除くために金属を熱するように、試練を通して聖潔られる。エルサレムの指導階級である王、宗教家は勿論、一般人にいたるまで取り扱いを受けて、偶像崇拜のつみよりすくわれるのである。

聖堂の鐘打ち鳴らしつつ新春 咲子  
新しく年を待ちつつ除夜の鐘 咲子

永遠の賛美と韓国大学生短期宣教チーム

一〇日間の伝道を行いました。教会では二回コンサートを行い、学生チームは一二日の成人式にはJR元町駅で路傍伝道を行ない、毎朝長田駅前で六〇〇〇枚のビラを配り、五名の新しい方がこられました。会堂全体の掃除と窓ガラスには寒さ対策の断熱のシートをはりつけました。照明も取り替えました。一月一七日朝五時から学生と東遊園地の震災二〇年の記念集会にも参加しました。